

# 国営沖縄記念公園 首里城地区管内図

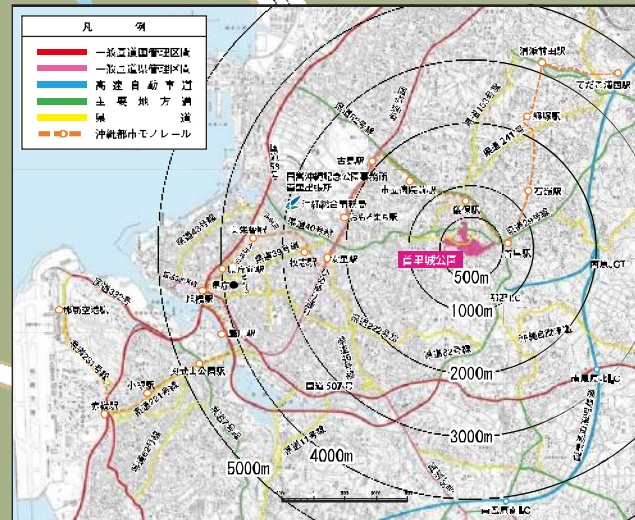
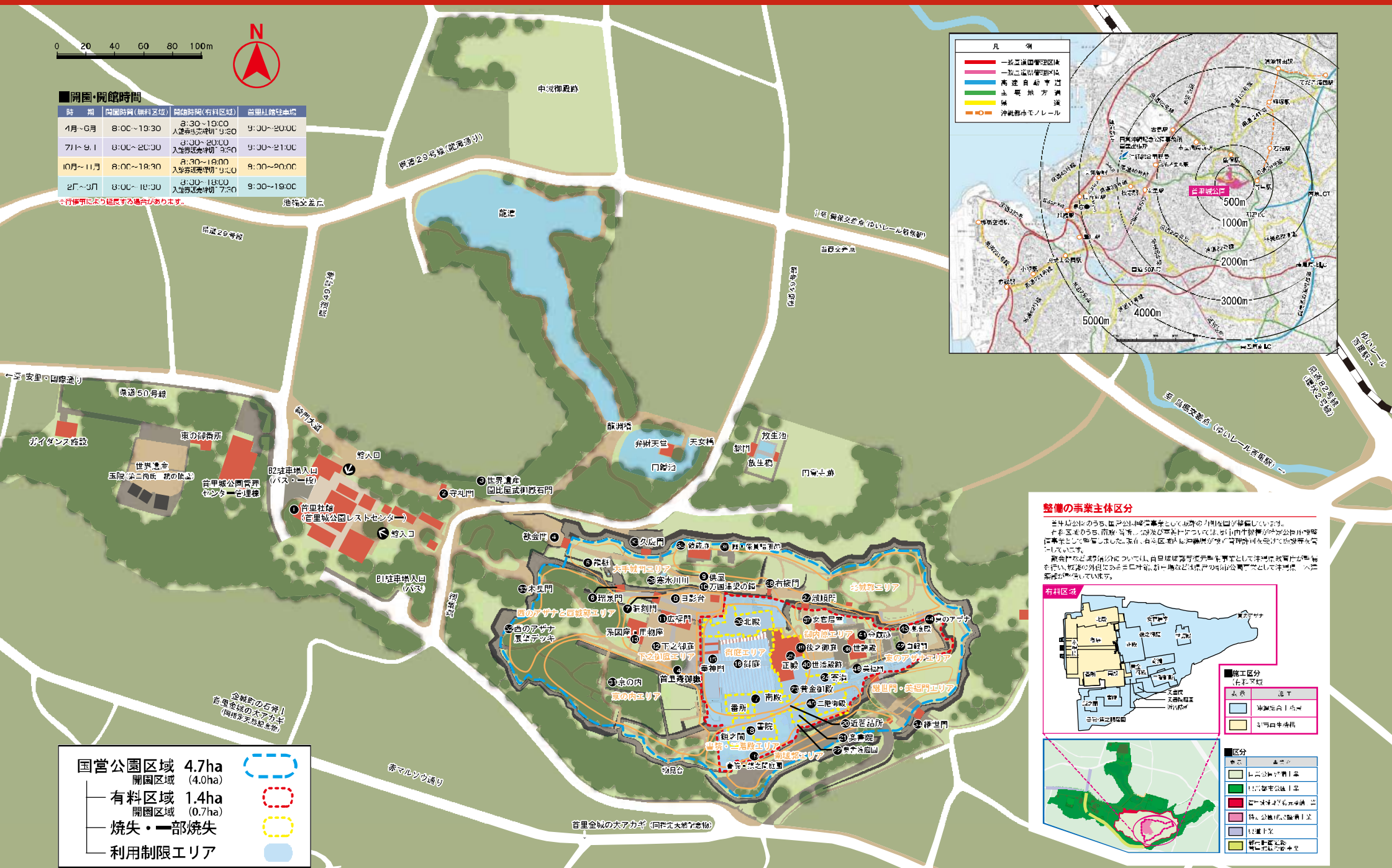
0 20 40 60 80 100m



## 開園・開館時間

時期	開園時間(無料区域)	開館時間(有料区域)	首里城駐車場
4月~6月	8:00~19:30	8:30~19:00 入館券発券時 9:30	9:30~20:00
7月~9月	8:00~20:00	8:30~20:00 入館券発券時 9:30	9:30~21:00
10月~11月	8:00~19:30	8:30~19:00 入館券発券時 9:30	9:30~20:00
2月~3月	8:00~18:30	8:30~18:00 入館券発券時 7:30	8:30~19:00

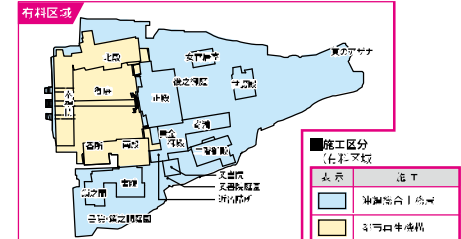
※行権等により変更する場合があります。



国営公園区域	4.7ha	
開園区域	(4.0ha)	
有料区域	1.4ha	
開園区域	(0.7ha)	
焼失・一部焼失		
利用制限エリア		

### 整備の事業主体区分

当首里城公園のうち、国営公園事業として整備の計画を国の移管している区域のうち、南西・南東の2区域は、国が事業主体として整備を行う。また、南西・南東の2区域は、国が事業主体として整備を行う。また、南西・南東の2区域は、国が事業主体として整備を行う。また、南西・南東の2区域は、国が事業主体として整備を行う。



施工区分 (右側区域)	
表示	表示
	海軍合同庁舎
	皇宮内務省

区分	
	国営公園事業
	国営公園事業
	国営公園事業
	国営公園事業
	国営公園事業
	国営公園事業
	国営公園事業
	国営公園事業
	国営公園事業

この地図は、沖縄県知事の承諾を得て、同県発行の2,500分の1の都市計画図を複製したものである。(承継番号)戸部権平13-1号

# 首里城公園 施設概要

■ 沖縄県史



**1 首里社** すいまいかん、(首里城公園レスト・マウンター)  
首里社、首里城公園のインフォメーションセンターであり、またが被展示物と休養施設です。総合案内、レストラン、売店、駐車場等があり、首里城を見学する前に必要な予備知識を構築します。供用：平成4年



**2 守礼門** しゆていもん  
首里城の十で最も代表的な門がこの守礼門です。正面の扉縁には「守禮之門(しゆれいもん)」と書かれており、「守礼(しゆれい)は守節(しゆせつ)と音同である」という意味です。復元：昭和33年



**3 園比屋武御嶽石門** (そのけやんぶたさいいもん)  
萬王が外出する際、旅の安全を祈願した礼拝所です。琉球石造建築物の代表的なもので、と書かれており、「守礼(しゆれい)は守節(しゆせつ)と音同である」という意味です。復元：昭和33年



**4 近習詰所** 焼失  
近習詰所(ちかじゆ)は、表(北側)空間と針内(南側)空間を結ぶ建築物で、青瓦、黄金御殿との階部分を造り、内部には給排水と暖房の設備があります。用土の際、鈎が壊され破損が用件を要しています。現在は、休憩スペースとして供用しています。供用：平成26年



**5 奥書院** 焼失  
国王が執務の合間に休息した建物であり、建物の南側には庭園があります。現在は、休憩や庭園が遊覧できるよう供用しています。供用：平成26年



**6 奥書院庭園** 焼失  
国王が執務の合間に休息したプライベートな庭園です。発掘調査と、石門の主要となる礎石が出土し、この礎石(穴掘り部分を修復)を中心に、首里城内で出土した石や境内から採集した石を利用して、古縁園及び古宮裏を共に復元しました。供用：平成26年



**7 黄金御殿** 焼失  
国王や王妃、王后のプライベートゾーンといえる建物で、2階部分で正座、二階御殿、近習詰所とつながっています。2階には皇族や貴族、近習詰所がありました。1階には主権門(はまきもん)・御書院(おきえん)・御門(ごもん)があります。現在は、特別展示室として供用しています。供用：平成26年



**8 歓会門** かんかいもん  
別名：あまへ御門(あまへごもん) 首里城の城郭内へ入る第一の門です。王朝時代首里城へは中国差遣の公式の使者(冊封使(はせつかい))が留められましたが、こうしん人々を歓迎するという意味でこのように名付けられました。復元：昭和40年



**9 龍樋** (りゆうひ)  
龍樋は、龍の口から湧水が湧き出ていることからそのように名付けられました。王朝時代の使者(冊封使)が留められましたが、こうしん人々を歓迎するという意味でこのように名付けられました。復元：平成4年



**10 瑞泉門** すいぜんもん  
別名：ひかわ御門(ひかわごもん) 瑞泉とは、「正流(ただなが)水(みづ)を意味する。門の扉に瑞泉(みづ)と書かれています。復元：平成4年



**11 漏刻門** ろうこくもん  
別名：かご屋(かごや) 漏刻とは、「正流(ただなが)水(みづ)を意味する。門の扉に漏刻(みづ)と書かれています。復元：平成4年



**12 奇満** けいまん  
別名：かご屋(かごや) 奇満とは、「正流(ただなが)水(みづ)を意味する。門の扉に奇満(みづ)と書かれています。復元：平成26年



**13 正殿** 焼失  
上層は首里城の中心の建物であり、木造二階建てで、南側に「下庭園(しもてん)」、北側に「上庭園(かみてん)」を構えています。復元：平成4年



**14 北殿** 焼失  
二階の中央行政庁として、日高は大造の官人が出入りし、首里城の中で最も重要な場所でした。現在は、特別展示室として供用しています。復元：平成26年



**15 淑順門** しゆくじゆんもん  
別名：しゆくじゆんもん 淑順とは、「清く深くよりそう」という意味です。復元：平成22年



**16 日影台** にちえいだい  
漏刻門の正面に置かれている日時計で、漏刻門の水時計が補助的な道具として使われていました。復元：平成12年



**17 供屋** (ともや)  
供屋の建物(土蔵)は、建物の規模や形状は正流(ただなが)水(みづ)と書かれています。復元：平成12年



**18 万国津梁の鐘** (ばんこくしんりやうのかね)  
万国津梁の鐘(ばんこくしんりやうのかね)は、この鐘は「万国津梁の鐘」と名付けられ、琉球は南海の美しい国であることを示しています。復元：平成12年



**19 広福門** ひろふくもん  
別名：長御門(ながごもん) 広福とは、「善行(ぜんぎやう)を勧める」という意味です。復元：平成4年



**20 右掖門** うえきもん  
別名：宮内御門(みやうちごもん) 右掖門は、宮内御門(みやうちごもん)と書かれています。復元：平成12年



**21 寒水川** (せみづがわ)  
寒水川は、瑞泉門の北側にあり、首里城内の重要な水道でした。復元：平成12年



**22 久慶門** (ひさけいもん)  
久慶門は、首里城内の重要な門です。復元：平成12年



**23 京の内** (きやうのうち)  
首里城発祥の地ともいわれる京の内(きやうのうち)は、首里城の中心地です。復元：平成12年



**24 下之御殿** (したごもん)  
首里城王政の「御殿」へ入る計の広場で、正殿で行われる様々な儀式の控え場であり、また王政の御殿の際には、式次第等として使われていました。復元：平成4年



**25 系図座・用物座** (けいず・もちものざ)  
系図座(けいず)は、皇族の系図を管理していた場所です。復元：平成12年



**26 首里森御嶽** すいまいのうたぎ  
首里森御嶽(すいまいのうたぎ)は、首里城の中心地です。復元：平成4年



**27 幸神門** (わかしんもん) 一部焼失  
幸神門(わかしんもん)は、若神門(わかしんもん)と書かれています。復元：平成4年



**28 西のアザナ** (いしのあざな)  
琉球の歴史に縁が深い身振らしの土物身台が西のアザナです。復元：平成12年



**29 木曳門** (きひきもん)  
この門は首里城の修復工の際、石材の搬入口として使われた門です。復元：平成4年



**30 経世門** (けいせいもん)  
首里城南側にある通用門です。復元：平成17年



**31 銭蔵跡** (ぜにくらあと)  
二階(海蔵)・油蔵及び城内で用いられていたお金を保管していた建物で、高気圧の2階建ての建りであったと推定されています。復元：平成24年



**32 御庭** (ごてい)  
御庭は、年間を通じて様々な儀式が行われた広場です。復元：平成4年



**33 南殿・番所** 焼失  
石段が「番所」として「南殿」です。復元：平成4年



**34 書院・鎮之間** 焼失  
書院は国王が日常の執務を行った建物であり、また冊封使(はせつかい)や御書院(おきえん)の確立を指し、ここで接待するところもありました。復元：平成19年



**35 書院・鎮之間庭園** 焼失  
沖徳県内のグスクの中で、史実として確認された庭園です。復元：平成20年



**36 殿・係員詰所跡** 焼失  
真では遺構の規模から3階〜5階程度の高が築かれたと考えられており、また御書院(おきえん)跡と推定されています。復元：平成24年



**37 女官居室** 一部焼失  
女官居室は、御内典で奉公する女官の日常の生活の場であったと考えられています。復元：平成31年



**38 世殿** 焼失  
平常は王女の居室として使われていたが、また、匠士が死去した際に世子を射し、即位するまでの期間の儀式を行う特別な儀式でもありました。復元：平成31年





⑬ 後之御庭  
(くしろごにわ)

後之御庭は首里城正殿前の広場（御庭）に  
対して築るの云端という意味です。往時  
の表之御庭付、工殿裏での宗祀・總札の  
ための広場及び生活の場でもあったと考  
えられています。  
供用：平成31年



⑭ 世添殿跡  
(よそえどのあと)

世添殿は御内原を所管していたところで、  
正夫人（相定）の位で築られた。建物を復  
元できるほどの資料が確認されていない  
ため、建物の輪郭のみを平面的に表示し  
ています。  
供用：平成31年



⑮ 金蔵跡  
(きんくらうあと)

本に本蔵を保管管理していた建物があり  
ましたが、建物を復元できるほどの資料  
が確認されていないため、遺の壁面を立  
上げ、立体的に示しています。  
供用：平成31年



⑯ 白銀門  
(しろがねかど)

奥のメサナの下方に設けられた門で、別  
名「しるがね御門（うしろ）」と称され  
ています。白銀門と奥のアザナの間に  
環廊跡があり、白銀門は環廊跡へ面する  
三層や女官たちが利用した門だと考えら  
れています。  
供用：平成31年



⑰ 二階御殿  
(にしょうごじま)

二階御殿は、国王の日常的な居間として  
使われていました。地形に合わせて北側  
は2階建、南側は平屋建になっており、2  
階内部は床の間の和や造りのある空間の  
造りになっています。  
供用：平成31年



⑱ 東のアザナ  
(あがりのあさな)

城郭の東側に築かれた見台です。城内  
で最も高く、往時は西（いり）のアザナ  
及び瀧廻り門（うらこくもん）と同様に城  
下へ時を知らせる役割もありました。  
供用：平成31年



⑲ 美福門  
(みふくかど)

美福門は、内郭に建てられた門で難世門  
(ひいせいもん) が建てられる前までは、  
美福門が首里城の正門であったとする説  
もあります。  
供用：平成31年



⑲ 美福門  
(みふくかど)

美福門は、内郭に建てられた門で難世門  
(ひいせいもん) が建てられる前までは、  
美福門が首里城の正門であったとする説  
もあります。  
供用：平成31年

## ● 建物復元タイプ



沖縄県首里旧城図（※明治初期）に加筆  
※那覇市歴史博物館提供

## 火災後の首里城と現在の首里城



火災後（令和元年11月1日）



現在の首里城（令和5年11月1日）  
工事中の正殿が風雨や埃等の影響を受けないように、  
仮設施設（木材倉庫・原土場・素屋根）の中で工事が進められています。



復元中の正殿（令和6年5月27日）  
屋根廻りが組みあがり、上棟を迎えました。  
令和6年度は瓦葺きや漆塗装の作業が始まり、工事の最盛期となります。

## ■ 復元タイプの凡例

タイプ	大分類	定義
付A	復元	造構、図面、古写真、配置図、事例、聞き取りの成果等の根拠資料に基づいて、往時の材料・工法でより精度を上げて内外部とも復元した建築物。
A	復元	造構、古写真、配置図、事例、聞き取り等の根拠資料に基づいて、往時の材料・工法で内外部とも復元した建築物。
B	準復元	造構、古写真（内部写真含む）、配置図、事例、聞き取り等の根拠資料に基づいて、往時の材料・工法で内外部とも復元した建築物。聞き取りについては、一部想定している。
C	外観復元	往時の聞き取りは不明であるが、造構、古写真、配置図、事例等の根拠資料に基づいて外部を復元し、内部は公園機能を重視した建築物。
D	外観想定復元	建物を写した古写真は確認されていない。造構や配置図、古絵図、事例に基づいて外部を想定復元し、内部は公園機能を重視した建築物。
E	外観再現	建物の位置や規模等を確認できる造構や古写真は無い。配置図、古絵図、事例に基づいて外部を再現し、内部は公園機能を重視した建築物。
F	平面表示	建物の位置や規模等を確認できる造構や古写真は無く、配置図と古絵図等で建物の雰囲気わかる程度、建物の輪郭のみを平面的に表示。

